

# 牧野(淀川上流)探鳥会 2016年12月度

2016.12.4 (第1日曜日)9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩、平 軍二(☎090-6901-1425)

12月はツグミ・シロハラなど冬の小鳥、カワアイサなどカモの仲間が観察できる季節です。昨日、斎藤さんと別団体観察会(枚方市駅~御殿山駅間)でしたが、牧野探鳥コースで珍鳥の**ホオジロガモ**、そして冬鳥として楽しみにしている**ベニマシコ**などを見ました。



## 1. 11月、冬の小鳥や猛禽類が次々に

ツグミ・シロハラ・ジョウビタキ・アオジなど冬の小鳥や、ミサゴ・ノスリ・ハイタカ・ハヤブサの猛禽類、そしてカモも個体数は多くなかったものの牧野の常連、カワアイサなど6種も出てくれた。曇り空で風もありやや肌寒い日となったが、最後にヒドリガモの中に珍鳥ハジロカイツブリがいて、48種で締めくくった。

**アオサギ・ダイサギ・コサギ3種のお見合い→**

## 2. 今月紹介する鳥はホシゴイ(ゴイサギ幼鳥)

今月は**ホシゴイ**と呼ばれているゴイサギの幼鳥を紹介します。ここ10数年、サギの世界に勢力争いがあったかどうかわかりませんが、**アオサギ 大幅増、ダイサギ 増加、コサギ 横ばいからやや減少、ゴイサギ 大幅減**、という傾向があり、ゴイサギがあまり見られなくなりました。次ページ表では、この5年間牧野探鳥会での観察回数が、留鳥ゴイサギ8回で、夏鳥ササゴイ9回より少ないことがわかります。



↑**ホシゴイ**

夜ガラスとも呼ばれている。

また、ゴイサギの名前の由来は、平家物語によると「醍醐天皇の命を受け、飛ばずに捕えられた鷺に、天皇の命令にさからわず神妙であると、五位(貴族の位)を与えた」と書かれている。

そんな中、先月の探鳥会でホシゴイが天野川にいました。小型の鳥は成長が早いので1年で繁殖するが、大型の鳥は遅く2~3年、ゴイサギは成鳥になるまで3年かかります。2年目までは体全体に白い斑紋があり、**ホシゴイ(左写真)**と呼ばれています。ホシゴイに良く似た鳥にササゴイの幼鳥がありますが、夏鳥であること、目(の虹彩)が赤ではなく黄色である、体型がほっそりしているなどでわかる。

一般にゴイサギは夜行性で、夕方カラスがねぐらに帰る頃、ゴイサギはねぐらを出発して餌場へ向うが、「グァッ・グァッ」と鳴きながら飛ぶので、



161106 10台以上自転車部隊が通過

## 3. コースで自転車にぶつからないように

牧野探鳥会は他の探鳥地に比べ鳥が多いけれども、探鳥コースに「**トイレが無い・自転車が危ない**」の二重苦が、アキレス腱になっています。特にサイクリング車が一日数百台、猛スピードでひっきりなしで、ぶつかる怪我をして痛い目に合うのはバードウォッチャーです。

**前後左右に目を配り、「自転車から自分を守る」**ようお願いします。

## 4. 次回1月は7日(第1土)9:00~14:00に変更

1月の定例開催日(第1日曜)が1月1日なので日を変え、**第1土曜日の1月7日**に開催します。冬は一年中で最も鳥が多い季節。今年も50種前後観察できると思います。コースの木が伐採されると10種近く減ると予想されますが、今後はどうなるのでしょうか。

